

# 環境マネジメント

グループを横断した環境管理体制を構築して、効率的かつ確実な成果を出せる環境経営を進めています。

## 環境経営推進体制

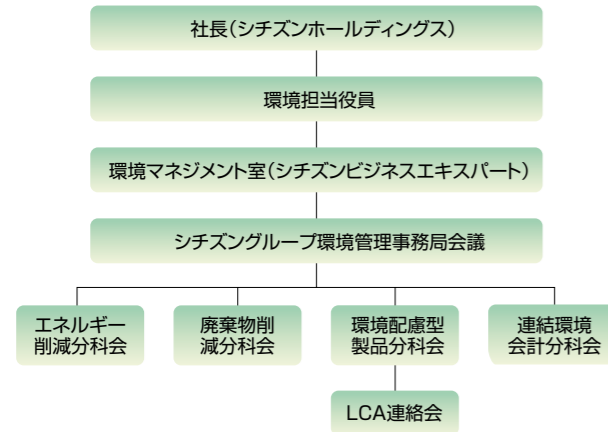
ISO14001認証取得状況  
http://www.citizen.co.jp/social/kankyo/iso.html

シチズングループは、効率的かつ確実に環境経営を推進するため、グループ横断の環境管理体制を構築しています。

年2回、国内19社の環境担当責任者が集まって「環境管理事務局会議」を開催し、各社の活動状況を把握するとともに、年度の環境経営方針、共通課題を検討・決定しています。その下部組織として、「エネルギー削減」「廃棄物削減」「環境配慮型製品」「連結環境会計」の4つの専門分科会があり、それぞれ具体的な施策を立案しています。

これらの組織を統轄し、グループの環境経営の中核機能を担うシチズンビジネスエキスパートの環境マネジメント室では、これらすべての活動が全体最適となるよう努めています。

### 環境経営推進体制



## 生産会社の環境マネジメント

国内16の生産会社は、すべてISO14001の認証を取得しており、各社ごとに環境管理活動を推進しています。

海外の18の生産会社は、環境配慮型製品を製造する上で重要となるグリーン調達や化学物質管理に重点を置くとともに、それぞれの地域に適した環境活動を展開しながら、順次ISO14001の認証取得を進めています。

## 環境教育・訓練

環境経営を推進するためには、グループの従業員全員が環境活動の重要性を認識することが不可欠です。

シチズンでは、各社の教育体系に基づく新入社員教育、新任管理職研修などに環境教育プログラムを組み込んでいます。これらに加えて、環境マネジメント室が計画する各部門の環境実務担当者を対象にした「環境担当者教育」と「ISO14001の内部監査員養成教育」をそれぞれ年1回実施しています。また、毒劇物や危険物を扱う生産部門においては、緊急事態を想定した訓練も実施しています。

さらに、資格取得を奨励する独自の「ビジネスライセンス制度」を設け、公害防止管理者、エネルギー管理士などの公的資格の取得をバックアップしています。

### 事例紹介

広州務冠電子有限公司／  
領冠電子(梧州)有限公司

#### 中国現地法人での教育実施例

シチズンミヨタの中国現地法人2社では、環境教育に注力しています。

広州務冠電子では、「一人ひとりが環境意識を高め、次世代に住みよい環境を！」をスローガンに環境保全活動を展開しています。2007年度は、RoHS対応やごみの分別処理をテーマとする教育を実施。中国現地法人でRoHS検査が可能になったほか、従業員の環境意識向上が顕著に現れています。

領冠電子(梧州)では、120人の幹部を対象にISO14001に関する教育を年2回実施し、運用のレベルアップにつなげています。



中国現地法人での環境教育

## 環境監査

東京・所沢サイト(東京事業所と所沢事業所)では、年1回のISO審査機関による外部監査と年2回の内部監査を実施しています。

内部監査は、内部監査員資格者で監査チームを編成して実施しています。東京・所沢サイトでは、毎年20名以上の内部環境監査員を養成しています。

2007年度の外部監査で不適合と指摘された2件については是正を完了し、観察事項についても改善しました。一方、内部環境監査で判明した合計9件の不適合については該当部門から提出された是正処置報告書によって是正完了を確認しました。

東京・所沢サイト以外の監査は、ISO14001認証取得会社各社で実施しています。

## 環境リスクマネジメント

シチズングループでは、環境法規制の遵守、RoHS指令対象物質の管理、廃棄物・リサイクルガバナンスの構築、環境関連設備の不備・事故防止、土壌・地下水汚染対策などを環境リスクマネジメントの対象としており、環境管理事務局会議での情報交換を通じて有効な施策をグループ各社に適用しています。

2007年度は、化学物質管理を徹底するため、国内外約60工場について書類による事前調査を完了。2008年は担当者が対象工場を訪問し、化学物質管理のガイドラインを策定する予定です。また今後は、全工場の監査を2年で一巡するよう計画を進めていきます。

### ●土壌・地下水調査と対策状況

2006年度に、国内外の生産拠点で有害物質の使用時などのような対策を行ったかを調べるために「使用履歴調査」を実施し、対応を5段階で評価しました。現在、汚染リスクが高いと思われる拠点については、順次、土壌や地下水の自主調査を行っています。自主調査の結果、汚染が判明した拠点については、行政に報告し、指導を仰ぎながら対策を実施しています。

### 自主調査の結果と対策状況

事業所名	汚染物質	対策	対策状況
シチズンホールディングス 東京事業所	鉛、フッ素、六価クロム、シアン	舗装	2008年5月完了
シチズンホールディングス 所沢事業所	フッ素	舗装および封じ込め	2007年5月完了
シチズン埼玉	鉛	除去	2008年3月完了
御代田地区3社 シチズンミヨタ、 シチズンファインテック、 シチズンマシナリー	揮発性有機化合物	揚水曝気および活性炭吸着	2006年4月から対策継続中

### ●シチズン東北の揮発性有機化合物の地下水汚染浄化状況

シチズン東北は、2006年6月に判明し、「CSR報告書2007」でも報告した揮発性有機化合物による地下水汚染について、汚染地下水が敷地外に流出しないようにするための「地下水の拡散防止対策工事」と「土壌汚染源の浄化工事」の二つの対策を実施することにしました。

地下水拡散防止対策工事では、2007年5月に地下水下流側に地下水浄化フィルター(PRB:透過反応壁)と遮水壁(矢板)を設置しました(総延長240m)。その後、3ヵ月ごとに地下水下流側でモニタリングしていますが、現在まで揮発性有機化合物は検出されていません。今後もモニタリングを継続し、行政への定期報告を継続します。

土壌汚染源の浄化については、汚染源が操業中の建屋の下にあることから、生産設備を2008年4月に竣工した新棟に移動した上で、2008年度中に土壌汚染源の浄化を行う予定です。なお、汚染の原因となった揮発性有機化合物の洗浄液は、2006年3月までに炭化水素系の洗浄液、あるいは水系の洗浄液への切り替えを完了しています。



地下水拡散防止対策工事状況

### ●シチズン電子八戸の廃液漏洩事故について

2007年6月、工場増設工事時に工場棟と廃液処理棟間に敷設している配管ピット内部で廃液配水管と継ぎ手部に亀裂による漏液を発見しました。原因は、1994年12月に発生した「三陸はるか沖地震」の際に生じた亀裂が、経年により進行して漏液が始まったためと推測しています。

土壌分析では漏液直下の土壌がpH4.4~6.5の酸性であることが判明したことから、直ちに八戸市に報告し、土壌中和計画を策定、現在浄化施策を実施しています。同時に、耐震対策として耐震構造配管への変更と、万一液が漏れた場合でも拡散を防げるように配管ピット内部のコーティングを行いました。また、この事故をグループ各社に周知し、すべての工場で点検と防止策を講じるよう徹底しています。